

あ と が き

構造工学委員会構造物診断研究小委員会は、1997年に設置され、土木構造物全般における診断に係わる技術に関する研究活動を2期、4年にわたり実施してきた。その活動の活発さは、1998年、1999年に開催された2回の「構造物の診断に関するシンポジウム論文集」を見ていただければ明らかであろう。なお、これらのシンポジウムの開催・運営には、小委員会のメンバーのみならず多くの方のご協力をいただいたことを明記しておく。

今回、2期を終了して活動を閉じるに当たり、委員会の総括に当たる企画を検討していたところ、鋼構造委員会鋼構造物の維持管理研究小委員会の三木委員長より、合同シンポジウムの企画をお問い合わせいただいた。診断ならびに維持管理に関する研究は、本小委員会は閉じるとは言え、益々の開発と展開が求められている分野であり、ここで現状を俯瞰し、問題点ならびに今後の動向を検討することは非常に有意義である。それに鋼構造の維持管理に関する最新の研究、我々の小委員会での取り組みあるいは考え方との相違、さらにはこれまでの活動の是非などを知り、今後への展開をの足場を固めるには絶好の機会であると考え、三木委員長の提案に応じることにした。

そこで、構造物診断研究小委員会からは、WG活動を実施してきた、(1)劣化予測、(2)評価・判定、(3)調査・点検の3分野から、それぞれの担当者に話題提供をお願いし、現状の研究動向と今後への展開の提案を探ることにした。我々の意図がシンポジウム参加者ならびに関心を持たれている各位に伝われば幸いである。また、構造物診断研究小委員会は一応の使命を終え閉じることになったが、この活動をさらに発展させるべく、構造工学委員会に新たな維持管理に関する小委員会を発足させることを進めている。この活動へのご協力を依頼し、これまでの関係各位の絶大な協力に感謝する。また、有意義な企画への参加をお許しいただいき、かつ、ご準備に精力的に取り組んでいただいた鋼構造の維持管理研究小委員会の各位にも感謝する。終わりに、連絡の取りづらい地方の会員ゆえに様々に労力をお願いし、ご迷惑をおかけした事務局の河西氏に深謝して結びとしたい。

平成12年11月

土木学会 構造工学委員会

構造物診断研究小委員会

委員長 大津政康